

ちかひ



浄土宗西山深草派宗務所
総本山 誓願寺
謹賀新年



慶讃大法要

元祖法然上人開宗八百五十年

令和六年四月二十一日～二十五日（五日間）

その時、
門は開かれた

◆ 目次 ◆

- 新春を迎えて
- その時、門は開かれた
- 開宗八百五十年に向けて⑤
- お釈迦さまの十大弟子 17
- インド^ド夕^バ夕^バ夫婦道中記 ⑤1
- 総本山誓願寺だより
- 何でも“お寺探偵団” Vol.55
石峰山 来迎院 東向寺



謹賀新年

新年明けましておめでとうございます。皆さま方には御健勝にてお過ごしのことと、お慶び申し上げます。本年も皆さま方の御支援のおかげで、無事新年を迎える事が出来ました。

平成三十一年一月十七日、本山に入山し、早いもので一年が過ぎました。年中法要、特に御忌大会、西山忌法要等、檀信徒の皆さま方には繰り合わせ本山へ御参詣頂き、大法会も大過なく勤め得ましたこと、佛祖の御加護と皆さまの御支援のおかげと、感謝致しております。そして十一月三十日には、派内各位と皆さまのお取り持ちに依り、かくも盛大に晋山式を執行出来ました事、深く感謝と御礼を申し上げます。

— 諸行無常 —

平成から令和の時代と移り行く社会情勢、この世のすべての事は移り変わって行きます。近年は自然災害が頻発し、昨年においては台風十九号や豪雨に川の氾濫、今までにない大きな被害が出ています。

私たちの宗旨は、人びとを幸せにしたいという願いの宗旨であります。

我が国と世界の人びとの平安を祈り、穏やかで心豊かな生活を過ごせる年となります様、願っております。そして檀信徒の皆さまにとっても良い年でありませう様、心から念願し、新年の御挨拶とさせていただきます。

令和二年 元旦

総本山誓願寺 第百参世

徳空 賢道 謹識

元祖法然上人開宗八百五十年記念事業テーマ

その時、門は開かれた

五年後の令和六年（二〇二四）は、法然上人によつて浄土宗が開かれて八五〇年という節目の年に当たります。これを記念して、本山での大法要をはじめ様々な企画が予定されています。

それらに先立って、ここで皆さんにその趣旨についてお伝えしたいと思います。

平安時代の末期、それはちょうど現代のように、世の中が混乱に向かう時代でした。人々の心の支えであるべき仏教も、大寺院を中心に、国家を護るため、貴族の繁栄を願うための活動が中心となっていました。当時の仏教は、一般庶民からは遠い存在だったのです。

そんな時代に、元祖法然上人は、天台宗の総本山、比叡山延暦寺で修業されていた。「智慧第一の法然房」と呼ばれたほど優秀な方でしたが、つねに心の内深く反省され、「自分は、現世での悟りを目指す仏教を修めるには器量不足だ」と嘆いておられました。

しかしある時、比叡山の浄土教の先達、恵心僧都の著書『往生要集』をきっかけとして、中国の唐時代の高僧、善導大師の教えにたどり着きます。そして、「極楽浄土に往生したいと願って念仏する人を、決して救わずにはおかない」という阿弥陀仏の誓いのすばらしさを実感されました。善導大師は、「自分は、なすことすべてが罪深い凡人である」との自覚をもって、一心に

阿弥陀仏の救いを願われた念仏の聖者でした。

この善導大師の言葉に導かれた法然上人は、やがて、身分・能力・貧富・性別等、あらゆる条件に関係なく、ただ「南無阿弥陀仏」の称名念仏によつて誰もが平等に救われる教え、「念仏往生」こそ真の仏教であると確信されます。ここに「浄土宗」という新しい宗派が開かれました。それは、誰一人、漏れることなく入ることができる、極楽浄土への入り口です。あらゆる人々を救う阿弥陀仏の世界の門が、広く大きく開かれたのです。

これが、承安五年（一一七五）法然上人四十三歳の決意でした。それから、まもなく八百五十年の歳月を数えます。令和六年（二〇二四）、開宗八百五十年。いまお念仏を称える私たちは、これを機会に、教えの原点を学び、悦び、感謝したいと考えております。

（元祖法然上人開宗八百五十年記念事業教宣部会）

開宗八百五十年に向けて

5

布教師会 杉岡道秋

建永の法難

法然上人は、承安五年（一一七五）春、立教開宗されませんが、念仏の教えを説く中で幾多の誹謗中傷や悲劇がございました。「建永の法難」も大きな悲劇の一つでございます。

法然上人の弟子の中に、住蓮房と安樂房という二人の若い僧がおりました。建永元年（一二〇六）の頃から東山の鹿ヶ谷を拠点に専修念仏を広めておりました。中でも『往生礼讃』と呼ばれる歌のようなお経を、美しい節まわしで毎日お勤めをしておりました。その美しい声を聴いて、仏門に入る事を決意する者が大勢いたといえます。

その頃、後鳥羽上皇は、熊野に行幸されておりました。その留守中、御所に仕える松虫、鈴虫という二人の女性が、鹿ヶ谷の草庵を訪ねて来て、住蓮、安樂にすがりついて出家する事をたのみました。

「どうか私たち二人を尼僧にして下さい」

「あのありがたい往生礼讃のお勤めを何度も耳にしているうちに、ありがたくなって、浮世を捨てて一途に仏に仕える身になりたいのです」

「お願い申します」

と松虫、鈴虫の二人がかわるがわる懇願をしました。はじめは躊躇しておりました住蓮と安樂でございましたが、強い希望に心を決め、尼僧にしました。この事が建永の法難の始まりでございます。後鳥羽上皇は、熊野から京都に帰り、上皇に使えていた二人の女性が、法然上人の弟子の住蓮、安樂のもとで尼僧になったことを知らされて大変激怒し、住蓮と安樂に死刑を宣告いたしました。

建永二年（一二〇七）二月九日、安樂は六条河原で、住蓮は近江の国馬渚で、それぞれ処刑されました。その最期の時、それぞれ美しい声で『往生礼讃』を勤め、

静かに念仏を称えながら打ち首になったと伝えられています。

住蓮と安樂の罪は、師匠である法然上人にも及びました。二月二十八日、法然上人は、僧侶の資格を剥奪され、名前を藤井元彦と改められ、さらに四国は讃岐に流罪となる宣旨が下されました。法然上人御年七十五歳のことであります。三月十六日、法然上人は下鳥羽草津の港から四国へと旅立つて行きました。鳥羽での出航の折、法然上人に篤く帰依しておりました九条兼実公とお歌を詠みあつておられます。九条兼実公は別れの時、

振り捨てて 行くは別れの はしなれど
文渡すべき 事をしぞ思う

という歌を送りました。すると法然上人は、
露の身は ここかしこにて 消えぬとも
心はおなじ 花のうてなぞ

という返歌を送りました。今生の別れとなるであろうと思う心とあたたかい師弟の心がこの歌に通っているようであります。法然上人が提唱された念仏の教えが、多くのご先祖さまのたゆまない相続によつて今日まで受け継がれて参りました事を喜び感謝したいと存じます。

お釈迦さまの
ご生涯
外伝

お釈迦さまの十大弟子

17

絵・豆田織奈 文・釈尊法話会

天眼第一の阿那律尊者その1



お釈迦さまの十大弟子のうち、七番目は阿那律尊者です。お釈迦さまには七人の従兄弟がいました。その一人が阿那律尊者です。他の六人の従兄弟とともに、出家してお釈迦さまの弟子となりました。

ある時、お釈迦さまが、お説教を

されました。その時のことです。日

頃の忙しさに寝不足気味の阿那律尊

者は、うとうとと居眠りをしてしま

いました。お釈迦さまのお説教を子

守歌にして。

お説教が終わったあと、お釈迦さ



天眼第一の阿那律尊者

まは阿那律尊者に仰いました。

「阿那律、そなたはどうして出家したのだ？」

阿那律尊者は答えました。

「世尊よ、四苦八苦の苦しみから逃

れ、安楽な人生を送るためです」

「それならば、苦しみを除く教えを

聴くのは、居眠りしながらの方がよ

いかな」

「申し訳ございません。私は二度と

眠りません」

「以後気をつけなさい。修行に励む

よう」

これ以後、阿那律尊者は、お釈迦

さまのお説教の時は勿論、夜になり

眠たくなっても眠りにつきませんでした。

した。

(つづく)

東龍寺住職 岩瀬賢良



インド **ドタバタ** 夫婦道中記 51

下界よりも食事が安い!

麓の町カートゴードラムからナイニタールに行くバスターミナルまで五分ほどふらふらと、どんな店があるか見ながら歩き、数人の男の人が立ち話をしていたところを尋ねると、ここがバス停だと答えてくれたので、僕たちもその固まりの端っこに加わった。何時頃バスが来るのかサッパリ分からないので、答えの予測についてはいたが聞いてみると、「すぐ来るよ」と、やはりその返事しか帰ってはこない。ナイニタールへ行くバス停だと分かっているだけで安心なのだ。

それほど待たずに、一〇時にバスは来て僕たちは乗り込み、二人分四四ルピー（約一一〇円）で切符を買った。バスは土埃を巻き上げ喘ぎながら蛇行する山道を登り、途中一〇分ほどバスターミナルで休憩があり、標高一九〇〇メートル余りの町ナイニタールには、一一時四〇分に到着した。

バスを降りると、すぐ横には山に囲まれた湖の景色が目に入ってきた。と同時にこれまでと違い、外の空気の冷たさを感じた。真昼の時はまだその程度 of 感覚だった。取り敢えず朝にチャイを飲んだだけなので、食堂を探しに狭いメイン・ストリートに入ると、その賑わいは大都会の繁華街にも匹敵するほど、人でごった返していた。通りが狭い分なおさら人の多さを感じたのだ。通りの長さは一五〇メートル位の短い距離ではあるが、その短い通りの中に様々な店と人々が集中している。ある程度歩いたのだが、適当に大衆食堂に飛び込み、サモサ、オムレット、チャイをふたつずつ、その他二品を注文をしてペロリとたいらげた。それでたったの五六ルピー（約一四〇円）とは下界に比べたらべらぼうに安かった。

満足して店を出て、安ホテルを求め湖沿いの道を、景色を楽しみながら歩いた。湖を囲む山の斜面に沢山のホテルや家並み眺められたので、泊まれそうなホテルを選び易かった。それにシーズンではないので高くはないとも思った。ホテル・マンサローヴァーというホテルで、一泊二五〇ルピー（約六三〇円）の部屋を見てそこに決めた。お金が少なくなっていたので、フロントで銀行の場所を尋ね、利子を部屋に休ませておき、僕はサイクル・リクシャを拾いバンク・オヴ・インディアに向かった。



ナイニタールの湖

総本山誓願寺だより

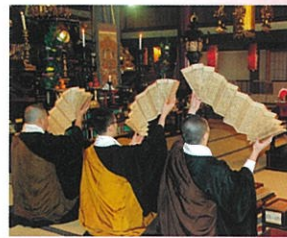
節分会

令和二年二月三日(月)

大般若転読会

無病息災・心願成就・芸道上達等、皆さまのお願い事を仏さまに祈願致します。

●午前十時～十二時
●午後三時～四時



日本舞踊・長唄奉納

午後一時半
演目

- 一、松の緑
- 二、大津絵

出演
日本舞踊・長唄桜流
桜 富寿佐
桜流門弟
誓願寺僧侶



豆まき

午後二時

扇塚法要

※古くなった扇の供養を致します。

おもな行事予定

一月

- 二日(元旦)
修正会
- 十五日(水)
六阿弥陀功德日
- 二十四日(金)
法然上人追慕念仏行脚

二月

- 三日(月)
節分会
- 八日(土)
六阿弥陀功德日
- 十五日(土)
涅槃会

三月

- 十四日(土)
善導忌
- 六阿弥陀功德日
- 十七日(火)～二十三日(月)
春彼岸
- 二十五日(水)～四月四日(土)
法脈相承

クイズコーナー

【問題】

3頁「その時、門は開かれた」より、元祖法然上人が比叡山延暦寺にて修業されていた当時、何と呼ばれていたでしょう？○○に当てはまる漢字を2字でお答えください。

○○第一の法然房

官製はがきに、答え、郵便番号、住所、氏名、電話番号、菩提寺(だんな寺)、感想や質問を必ず書いてご応募下さい。その中より紙面に採用させて頂くことがあります。掲載時には、はがきにてご連絡差し上げます。名前の掲載が困る方は、その時にご返事下さい。今回は倉内賢道院下ご染筆の色紙を1名さま、東向寺さまより観音さまのお守りと今川義元公グッズをセットにして5名さま、本山謹製線香を5名さまに抽選して差し上げます。ご応募お待ちしております。

【宛先】 千四四四-三五〇五

愛知県岡崎市本宿町東木竹十六番地

欣浄寺内 ちかい編集係

【締切】 一月三十一日

(消印有効)

答え ○○○○
郵便番号
住所
氏名
電話番号
菩提寺(だんな寺)
感想・質問等

ちかい 第157号

発行日 令和元年十二月五日
発行所 浄土宗西山深草派
総本山誓願寺

京都市中京区新京極桜之町四五三番地
電話 (〇七五) 二二二-〇九五八
FAX (〇七五) 二二二-二〇一九
E-mail info@fukakusa.or.jp
URL http://www.fukakusa.or.jp

何でも

お寺探偵団

とうこうじ 東向寺

Vol.55



今回は愛知県西尾市の「石峰山」
迎院「東向寺」を訪ねました。 来

profile

中村正豪師(東向寺第34世) 63歳
愛知県西尾市生まれ。立命館大学法学部卒業後、西尾市役所に奉職。平成10年に東向寺住職に晋山、宗派教区長を経て、現在は宗会議員を務める。

県道からほど近く、境内はとても自然が豊かで風光明媚なお寺です。本堂に入り、大きな天蓋の下でお参りすると、まるで私が尊いものとしてお守りいただいているような気持ちになりました。(探偵H)

Q1

お寺の歴史を教えてください。

東向寺は貞観6年(864)比叡山の僧慈覚大師円仁により開

基されたと伝えられます。

明応年間(1492~1501)

中島崇福寺開山天祐上人の弟子光祐上人が入寺し浄土宗に改宗しました。三十一世澤空恩靜上人は境内東側の山に西国三十三観音を造立し、鐘楼、三弘法堂を建立。三十三世善空豊丸上人は、昭和から平成にかけて本堂、観音堂、庫裡を再建しました。

四世禮幹徳順上人は、今川義元公の伯父とされ、今川家から供田を寄せられ、禁制を発せられたと伝えられます。永禄3年(1560)桶狭間の戦いで討死にした義元公の首を家臣の鳴海城主岡部元信がもらい受け、駿河へ退却する途中縁故ある当寺に預けたとされ、境内東側の山の中腹に首塚が建てられています。また寛文2年(1662)と奥書された位牌も本堂に安置されています。令和元年は、義元公生誕五百年にあたり、静岡方面からも多く

の方がお参りに来られました。

Q2

お寺の宝物は何ですか？

境内観音堂に祀られている聖観世音菩薩像は行基作と伝えられ、調査によれば平安中期の作とすることで、市の指定文化財になっています。昔は子年に御開帳されていましたが、現在は毎年4月の観音大祭に御開帳され、近隣の多くの方がお参りされます。柔和な優しいお顔の観音さまで心が安らぎます。

Q3

好きな言葉を教えてください。

唐の詩にある「年年歳歳花相似、年年人同、人同、人同、人同」という一節です。「花は毎年毎年同じように咲くが、去年と同じ花ではない。それを一緒に眺めていた人も今はもう隣にいない」世の無常を表した美しい句です。過ぎた日は戻りません。これからも一日一日を大切に生きていきたいと思えます。

Q4

「ちかい」の読者に何かいただけませんか？

観音さまのお守りと今川義元公グッズをセットにして5名さまに差し上げます。

【交通】
名鉄西尾駅から名鉄東岡崎行きバスで15分、駒場下車徒歩5分
国道23号西尾東1・Cから東へ5分

【主な行事】

修正会	1月1日
七草会施餓鬼	3月第1日曜日
観音大祭	4月第2日曜日
法界会施餓鬼	7月第4日曜日

【お問い合わせ】
東向寺
〒445-0021
愛知県西尾市駒場町榎木島115番地
電話 0563-52-1401 Fax 0563-52-1615



◀聖観世音菩薩像(市指定文化財)



◀今川義元公の位牌と首塚



◀本堂外観



◀本堂内観